

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



Vol.56

バーニング・マン



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」！
案内役は、国際交流員のローラ・スタンリーさんとカレン・イートンさんです。

Hello！ローラです。今月からまたこのコーナーが始まります。今回は、私の国で開催されるバーニング・マン フェスティバルについてお話ししたいと思います。このお祭りは不思議なことがいっぱいです！

都市それとも祭り？

バーニング・マン フェスティバルは毎年労働者の日（8月の終わり～9月の始め）に行われます。干上がった湖底に人口5万人の架空の都市「ブラックロック市」が出現します。ブラックロック市が存在する間は、アメリカ・ネバダ州の中で3番目に大きな都市になります。



アメリカや世界中の人々が、植物や動物が生息することができないこの場所へやって来ます。日中の最高気温は38度にも上がり、夜の気温は0度まで下がります。視界を妨げるホワイトアウトと呼ばれる砂嵐もよく起こります。ブラックロック市に集まった人々は、さまざまな理由を持ってバーニング・マン フェスティバルに参加します。ある人にとってはブラックロック市は一種のユートピア（理想郷）であり、またある人は芸術を見るためや驚かせるためにやってきます。そしてまたある人はただパーティーをするためにやって来ます。

その都市はほとんどがテーマキャンプ（確かなテーマを持った人たちのキャンプ）で構成されています。例えば「アポカリプス・ラウンジ」というテントでは、ロボットの暴動やゾンビの襲撃から生き残るトレーニングをすることができ、「チーズ・バッグ・パイプ」ではバグパイプ音楽を聞きながらケサディーラ（メキシコ料理）を食べることができ、そして、「ソウルメイト・トレーディング・エンポリウム」では、申請をすると運命の人を見つけたり交換することができます。

市内の交通手段は自転車またはアートカーです。アートカーとは普通の自動車とは少し違った自動車で、例えば中にバーがある2階建てのバースデーケーキ型自動車だったり、巨大な豚の形をした自動車などです。



△蒸気船型のアートカー

人々はアートカーに乗ってダンスをしたり、おしゃべりをしたり、大規模な芸術装置を見たりして楽しめます。

自転車で市内を回ったら、人間とおもちゃの猿との結婚式や、動物パトロール隊に捕まった動物のコスチュームを着た人達のパレードなどに出くわします。ほとんどの参加者は



プラスチックのスプーンやバービー人形で作った手作りのコスチュームを着ています。

バーニング・マンにはいくつかのルールがあります。ほとんどは参加者の安全を守るためのものです。（決められた条件のもとで火をたく、市外でアートカーを運転してはいけない、犬を連れてきてはいけないなど）

氷の販売が認められているキャンプやコーヒーが販売されているセンターキャンプ以外では、物を買ったり売ったりすることは禁止されています。お互いに無料で物を配ったり交換したりする「ギフトエコノミー」と呼ばれるシステムがここでは成り立っています。講義、ダンス教室、ピエロのパフォーマンス、パンケーキ、バー、飛行機に乗ることさえすべて無料で体験できます。ブラックロック砂漠を去るときにはゴミをすべて持ち帰らなければなりません。もしあなたがここへ行ったなら、勇気をもって参加してください。決して傍観者になってはいけません。



バーニング・マンに参加したことがない人達は、ヒッピーしか行かない所だと思っているかもしれませんが、参加者の多くが医者、弁護士、科学者などです。

バーニング・マン フェスティバルの最も良いところは、何が起るか決して予想がつかないところです。それは間違いなくアメリカで最も野性的で面白いお祭りです。もっとバーニング・マンの写真を見たい方は、burningman.comのウェブサイトアクセスし、Image Galley をクリック



△夜のバーニング・マンの様相

バーニング・マン (Burning Man) とは、アメリカ合衆国ネバダ州リノ市から約150 km (90マイル) 北北東に位置するブラックロック砂漠において、年に一度、8日間に渡って開催される大規模なイベントをいう。干上がった湖であり、堆積した泥が乾きびび割れた「プレーヤ」(Playa) と呼ばれる土地に面積4.5平方km、周囲7.5kmという広大な会場が設営され、その参加者数は2007年には47,366人であったと発表されている。「バーニング・マン」という名称は、会場の中心に設置された巨大な人型の木像「ザ・マン」(The Man) に土曜日の夜、火を放つ(burn) ことに由来する。(ウィキペディアフリー百科事典より)